

## 序章 総合計画の構成と目標年次

本町での総合計画策定は、今回が4回目となります。これまでの計画策定では、社会経済の発展が見込める、いわば成長社会の中での計画づくりでしたが、現在、社会構造の大きな変革が見込まれ、将来の予測が非常に難しい状況の中において、今回は、21世紀初頭の新しい時代を展望した計画策定であるといえます。

しかしながら、このような時代であるからこそ、逆に長期の将来展望を見据えたまちの計画づくりが大事であるといえることから、本町における今後のまちづくりの指針として『精華町第4次総合計画』を策定します。

また、現在、地方行財政をめぐるのは、財政悪化や市町村合併などの住民生活に大きく関わる課題が存在していますが、本計画においては、これらの課題の動向を注視しながら、着実に今後の町行政の方向性を照らし、情勢の変化に柔軟に対応できる計画として策定することとしました。

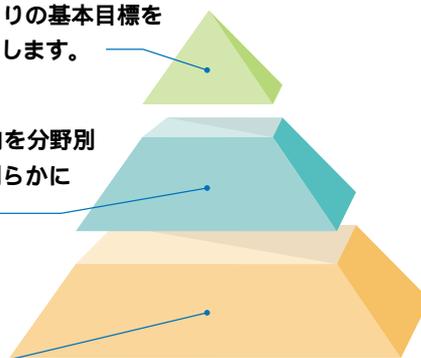
### ■総合計画の構成

本計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」により構成します。それぞれの役割は次のとおりです。

「基本構想」 本町の現状とこれまでのまちづくりを踏まえ、住民の視点に立って、概ね10年後における将来のまちの姿など、まちづくりの基本目標を明らかにし、その実現のための基本的な方向性を示します。

「基本計画」 基本構想を実現するための具体的な施策の基本方向を分野別に示し、個々の事業・施策の位置付けを体系的に明らかにします。

「実施計画」 基本計画を踏まえ、具体的な事業や施策の体系を明らかにします。



精華町第4次総合計画の目標年次：平成24年（2012年）

## ■目標年次

「基本構想」は、21世紀における本町の長期的なまちづくりを見通しつつ、概ね平成24年（2012年）を目標年次とします。

「基本計画」は、基本構想と同じく、概ね平成24年（2012年）を目標年次とします。

「実施計画」は、別途、3か年の計画をまとめ、ローリング\*することとします。

また、時代の変化にあわせて適切に計画を進めていくために、必要に応じて見直しと柔軟な対応を図ることとします。



ローリング…回転方式。実施計画の見直し方法で、計画と現実の間に生じる差異を埋めるもので、毎年見直しを行う方法。